週報 W RAPID *Weekly Report on Aomori Prefectural Infectious Disease*

青森県感染症発生情報　（2005 年第 2 週）

発行　青森県感染症情報センター（2005 年 1 月 21 日）
（青森県環境保健センター内:担当　微生物部）
TEL　017-736-5411、 FAX　017-736-5419
青森県庁ホームページ　http://www.pref.aomori.jp/

Ⅰ　第 2 週の発生動向（2005/1/10～2005/1/16）

1. **感染性胃腸炎**については、県全体では減少しているものの報告数の多い状態が続いているので、家庭内、保育所、学校、高齢者施設など人が接触しやすい場所では今後も注意が必要です。
2. インフルエンザについては、青森保健所、五所川原保健所管内において、患者報告がありました。

Ⅱ　第 2 週五類感染症定点把握

保健所名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数
疾患番号・疾患名	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	(前週からの増減)
(72) インフルエンザ	2	0.15					2	0.29					4	0.06	1
(60) 咽頭結膜熱															-1
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	1.00	30	3.00	1	0.11	1	0.20	5	0.83	4	1.00	49	1.17	11
(62) 感染性胃腸炎	61	7.63	62	6.20	40	4.44	8	1.60	38	6.33	37	9.25	246	5.86	-33
(63) 水痘	9	1.13	17	1.70	23	2.56	4	0.80	10	1.67	4	1.00	67	1.60	-48
(64) 手足口病			6	0.60	9	1.00			1	0.17			16	0.38	2
(65) 伝染性紅斑			1	0.10	4	0.44							5	0.12	-1
(66) 突発性発しん	3	0.38	5	0.50	7	0.78	2	0.40	2	0.33	3	0.75	22	0.52	-4
(67) 百日咳															
(68) 風しん															
(69) ヘルパンギーナ															-6
(70) 麻しん（成人を除く）															
(71) 流行性耳下腺炎	4	0.50	1	0.10	14	1.56			1	0.17			20	0.48	-6
(73) 急性出血性結膜炎															
(74) 流行性角結膜炎							2	2.00					2	0.18	-8

定点数					
保健所名	インフルエンザ（内科＋小児科）	小児科	内科	眼科	基幹
青森	13	8	5	2	1
弘前	16	11	5	3	1
八戸	14	9	5	2	1
五所川原	7	5	2	1	1
上十三	9	6	3	2	1
むつ	6	4	2	1	1
合計	65	43	22	11	6

は警報です。　　は注意報、　　「空欄」：患者発生数 0

Ⅲ　表Ⅱ以外の感染症法対象疾患　（17 年計には、今回届出された人数を含む）

(59) ＲＳウイルス感染症（五類定点把握疾患）　弘前保健所：1 人、五所川原保健所：1 人　（17 年計　4 人）
(82) マイコプラズマ肺炎（五類定点把握疾患）　八戸保健所管内：2 人　（17 年計　5 人）

感染症の窓　インフルエンザ

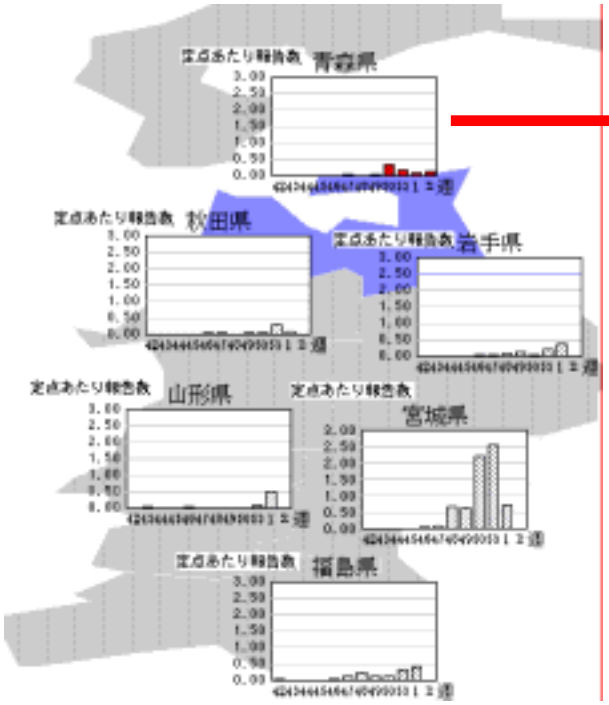

図 1　東北六県における定点あたり報告数の推移
（青森県以外は第 1 週までの報告数）

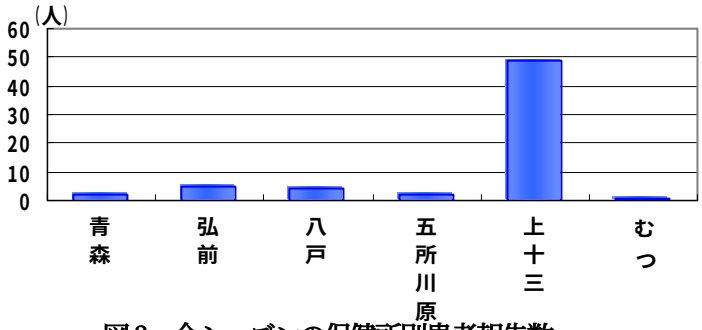

図 2　今シーズンの保健所別患者報告数
（2004 年 49 週～2005 年 2 週）

現在までの報告数は、東北六県においては宮城県が多く、青森県においては上十三保健所管内からの報告数が多くなっています（図 1,図 2）。

全国では A/H3N2（香港）型が主流です。東北六県の検出状況においては、山形県で B 型、宮城県では A/H1N1（ソ連）型、A/H3N2 型、福島県では A/H1N1 型が検出されています。

青森県の 2004 年第 49 週から 2005 年第 1 週までの報告では迅速キットにより A 型、B 型が検出されています。高齢者や乳幼児、体の弱っている方では重症化することがあるため、症状が出た場合は医療機関への早めの受診をお勧めします。